

大分合同新聞

2024年(令和6年)11月12日(火曜日)

蘭学や現代医学 楽しく勉強20年

中津・マンダラゲの会

【中津】蘭学者を多く輩出し、日本の近代化に貢献した中津藩の蘭学や現代医学などについて学ぶ「マンダラゲの会」が40回を迎えた。中津市大江医家史料館(鷹匠町)を主会場に年々回開かれ、20年間、蘭学をキーワードに集まった人たちが温故知新の活動を続けている。

会は藩医を代々務めていた大江家の顕彰や蘭学の里づくりにつなげようと、同市の医師川島真人さんら有志が2005年に始めた。

蘭学や最先端の医学研究、健康などの専門家を招いた講演会のほか、同史料館の薬草園(400平方メートル)での庭作業、大江家が薬草を提供した大江風呂(現40回目は10月下旬)にあり、市内外から約70人が参加した。30種類の薬草がある薬草園で草取りや剪定作業をし、近くの西蓮寺では「三浦梅園の養生訓と現



上薬草園の手入れをする参加者＝中津市鷹匠町の市大江医家史料館下大江医家史料館の庭で取った薬草を使った薬湯を体験する参加者＝同市三光田口の八面山金色温泉



年2回 薬草園造りなどで大江家顕彰

市内下池水の山下邦子さん(79)は「知識がなくとも面白くて勉強になる。参加者同士の交流も楽しい」。川島会長は「蘭学を基にした現代の医学、健康について知ることが出来る。薬草園造りなど楽しみながら気軽に活動してもらえたら」と話している。次回は来年4月下旬。会員を随時募集している(年会費・個人千円)。問い合わせは事務局の川島整形外科病院(0979・24・0464)。(和田由子)



鳥田大分大名堂教授の講演に聞き入る参加者